

# 赤潮発生状況について

加藤慎治・酒井基介

赤潮情報伝達事業の一環として、県下における赤潮発生状況を取りまとめたので報告する。なお、赤潮発生時などの情報収集、現場における赤潮の推移状況、被害発生調査等は前年と同様の方法で実施した。

## 結果

表1に平成18年の赤潮発生状況、図1に赤潮発生件数と被害件数の推移、図2に赤潮形成域の分布をそれぞれ示した。本年は4件の発生が認められ、前年より2件少なかった。6月下旬には阿南市橘湾及び椿泊湾で*Heterosigma akashiwo*による赤潮が発生したが漁業被害はなかった。また、鳴門市内ノ海では8月上旬に*Karenia mikimotoi*が増殖し赤潮を形成したが、速やかに消失し漁業被害の発生には至らなかった。2月下旬～3月下旬には小松島市から阿南市にかけての広い範囲で大型珪藻の*Eucampia zoodiacus*の増殖が見られ、海域の栄養塩低下を招いた。

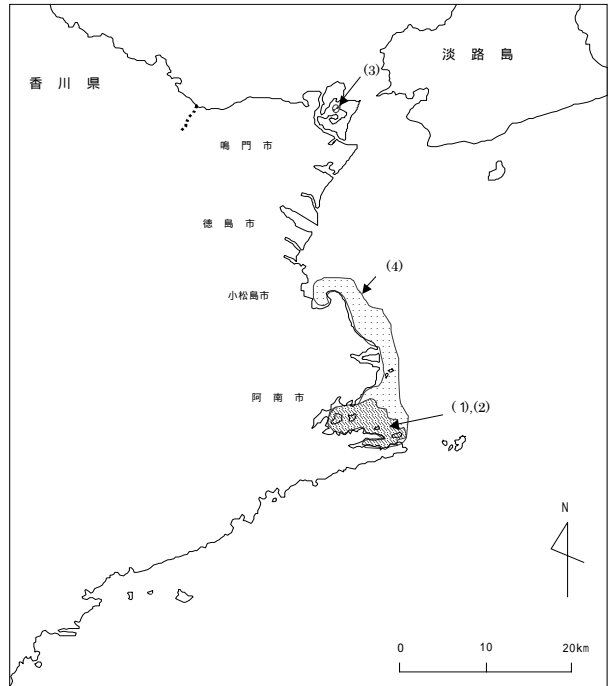


図2 赤潮形成域の分布

図中の番号は表1に示した赤潮の番号を示している。

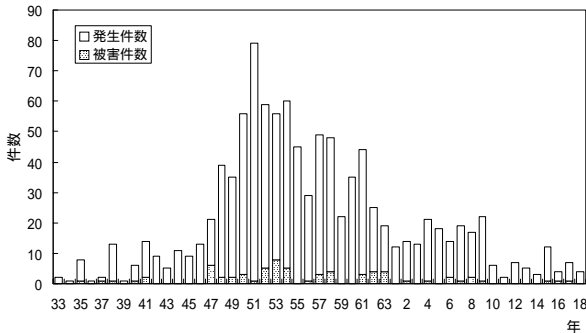


図1 赤潮の発生件数と被害件数の推移

表1 平成18年の赤潮発生状況

整理番号	発生期間	日数	発生海域	赤潮構成種	漁業被害	最高細胞数 (cells/ml)	備考
1	6/27～7/1	5	橘・椿泊湾	<i>Heterosigma akashiwo</i>	無	25,000	
2	7/25～7/29	5	橘・椿泊湾	<i>Chaetoceros sp</i>	無	37,000	
3	8/8～8/9	2	内ノ海	<i>Karenia mikimotoi</i>	無	7,800	
4	2/26～3/28	31	椿泊湾～小松島湾	<i>Eucampia zoodiacus</i>	無	711	